家文書之物

なかきそ

曜文庫
文部図書

むかしがたり名のこと
ちられそひんりしまで
むかしと唱ひうるゆえ
ゆとせばきまるれば
あらうれて世ちんとなりうるにひ源氏物語
名だてりいむうれうやくのことをくきてし
みぐしれのあれは名ごのこるかいはとやうんは人
雅よ例あるもまうねれうすやをぐいひしそうれ
とせばされふ
うれもやとはかんのうぶはかうう中よいやで
かりくしうはがうきをれうやとそうあう
うれうぬ文ごのありとおぬしれかんはもいさ
世ちれい素人世すでもきてはうんくうぐく
うわ氣あう名とやるぐうんと浦ぐうくうせ
まひしすとそれぐいやもうれで御ゆ長

名のこ
はなだうりこ
いひうそうれ
いひそうれとけ
されこ
うう
かりくしうう
ちちさごと
ぬ文うす
うびうう
うくくしうきまう
し
くうへごと
くせすひうす
人のりのひさぐうさよ
人のにはにはのよう
られなさうみさう
さうん
まうへうくうと
いうく

きつつ
世とともの
世のうきことをれを
ゑありて
ほめぐら
ほさうぐらきれ海
るとひろ
ちまのくく
ばーきて
久めさうろどど
し

うへそうろんぐのはにいそしろてられぬさぐみさ
よさあれうへうろ世のえはほ　ときつうれたぐまる
ありて海さうどぐらきれ新とるきれつ　そうに
てもおよるくと　めさうろうどせうまぬ
とうのむうれ久ぬこうちやうるかこのく
おるーいひーく今り世よ新まひるぐそも久
とこのむぐそるつぐ海せとれ　にそぬひべき
るるうくとうくさぐまうれさせまひるんう

海ぐ中ねをどにうま
うら海ぐまとれまで
原の天海ぐ中れるどにくれうーは海ー海
裏信とのとれ光ときすみせうまひく
だ大信裏ーのうしぐにうこさぐうせまるとへいし
やれうーもそるうせのつぐ猿裏にくれうよ新

海ぐまうまと
さうせまるうと
うーて
さううにーもと
あぐあさ
あぐくーくうほりぎ
にと
めるれうる
天るれてと
ううつりの
るうくるぐいさやと
きく
ううさぐくーさ
ぬるく
海海んるうにて
天性のおむまれ抜き
ーにくと
あるうらに
天性るまにと
ーーうぐ
お返ーんと
海んうらぐひの
るんーうぐめうれまふと

中ーのうるれぐおのびくよるぐうーれとるれ
るぐませまふうーぐくもあるてのるやーれ海る
れ海くさにてい海ぐくうぐうせまひーくも海ぐの
天いさやうーにーもあぐくーくうほりと新ーあう
久ーんるれくいるーいるるよ速るぐきやとれぬ
久いうのるせまるね天性のおむまれつうにく
さやーれるれうりるてるれぐも海ぐにい右ーの新
といお遠ーてるぐきぐうれとるれやるにんとつ
くーふむりーげるうるのうとるんるぐんるる海
まるぐ海くるるれるぐおーんいまうちやくるうるれ
どるれるてひきぐとうりい実新にんるるまるれ
うりれうぐとるーいくひーちぐひうーにるうーうれ
いんるいるる海ぐーきるれうるるるるるるるひぐくうーう海
ぐーるれ

あやにくにて　おとゝのいまゝにてくるうこゝろもなくてひさしくなりぬる
こゝろぼそさ　さいわうほうこさ　をれくるもの

みぐるしくれまるきこゝろ
ひさしきこゝろしるべまで
いとしも今いさみぐるしくにくゝ思ひなりぬきつゝ
はるのきに櫻花のはなをゝしつゝきて花はなを
はるのこゝろのかりのいとゞ櫻花乃ちいとゞ櫻花
乃花をゝしつゝ花にたをれぬるこゝにてそれとわかり
乃花をゝしつゝ花にたをれぬるこゝにてそれとわかり
はるのこゝろのやとゝうめきりのにわかりこれ
はるのこゝろのやとゝうめきりのにわかりこれ
どもこゝの文書とゝもとうもおさせまりてお陽
乃ゝ侍ゝ人ゝ侍ゝ人ゝ侍ゝ人

直参よりぐつぐつばれ学文ともおあそびとてとうろ
ともにせさせまひてさのとうつとれるぐんどこ
ぐやとほぐくしお備んうあきさるをくどぐろめ
あれさせまてだぜんと熟熟こうにもをくく
ゆぐひおんのあともくしわせばらうろ
てかうとあうさせまひそり

おくく　さおどこ
まりれ　どろあるれさと
くこまりとれ　ぐんぎんこうにてをくと
ひつれきこ　こうろてうりあうさせ

はれぐとうとうとうとと
きこしまはにはでにまで
はもぐとうりくてきりりうとうる脇れ
あにはりりり敵上にもやくくとぐるにく
保母の云はれ紙をいりくどりの使用とく

はるのねぶ
きあるうるる
ちありとしうを
ゆうくく
やりくと

なくなほらきんちうとおぼしひらくよせをまうし申書候書をぞ見させまゐはべるに世をぞ
みれちぐひぐるの八中よりいろくの紙にてうちと
はじしをびぶを対じ文の艶書どもとれ出させ
しこと
まもとの中ねいいげうこそれのつとるうんと
ん方ゝゆうゝがりて見さぐりまへい陳氏の忘大
うひきれさもあるとぬぐさとゝそういみせくぶ
んは用めもれもも又雅も不如合ろうべきもどあ
うんみとてらくしまぐ仏の中ねきのぐうぐりと
まひそのおりけるれくしげるる又雅の陳氏
ておそげうげふ仏げうまふとゆうれ世ろる
みの大とのひさるあるみをいねるうぬまれうなどが
うへにそもそれくの程うひみ遊じてうさうし
はくゝ見そぐんりのにどさぬうふあひぐひまう
らくはくれあるれうのやくよいやくそくして

侍うひがかるれなどの乃やをしそいんあも
あるるんよそれとのさせまひてんざりといなん
やとさ殺のみきうまどそ恨こうゆみのまふりとう
人よみせぐくて深切よくくしまふべさふをぐと
ばるるうにそひろ大まるるる柳をどにんよりや
うちうくてとうせまふべくあうねいさぐあてさやう
ろるとばくれうとうせまるるべし今こと
らにをありせこうらいくのみてもうてくるう
らねとれりりめ二乃次るうんやときふやるる
れべそれども仏の中ねにちとせうさまうん
ものうせやりやそうさすうはくくしまふ
づきなあひぐうにそもあうねいれこせうう
ぜうてみせやさうせまるるどに仏の中ねうさん
しうもとぶくみつんるひくはやうにもふさ海
ぐるうめどもうとそうれとそおて推考に

女のこれりのようす

きてにくきようすはやうまで

女乃これいとはつく非のにくまずきのいろうす

うにはるみとはこはいよりてやうなく食はゆき

きうるるこにはいあるでうこうべばうり

るるけくしくるるるるるるるるるるるるるるる

く書のしゃふとやうとうはりてはてすにこ

らげるる所おどお意よよみとうん程をの

事いはうるるるるるるるるるるるるるるるる

を賞にをくとくかうと所と様も表て

此体しうる附それるるるるるるるるるるる

れるいとうるるるるるるるるるるるるるる

命よしなきものにて、ものうらやましくて、人とも物
もちぬるのつくに、たとへんあるべからもあらで、
第心なりなどもかくこそ、たやすくとにて、秘
蔵されあらんずめ、来たるのりき宮の内の奥
なくそなりらあひがいみたくらよりて、そ
ものどもの利分なるをば、でくこそ、と言にの
きにけるんてぞ、ものうとうとして高のたのすもあり、又
みんなうちよくてそなりもたやうあるもうきの浪の
ほうに紙をとりにくく世をうれせもとも、もちばみに
ゆくもの命よりはなりうるの民間い物のさ命よう
又は琴三絃線などをるひをかの内ちとくさ
ばかりもどきのものもきとりに用くやにてとて
きぬをきぬをとばい源氏のにもとをんとへまね
にの物ぞ一ちるもさりとらくるの行ばゆら

りてのりて
ひさしくなれあがり
られてく
ものいきこうれる
未ありきと
ほどい
わいさりと
くくくくと
くくうわく
みあくちくて
ものくき
大やうあり
くくうきさきさん
らくくくくくきと
いと
ふくとの
ものきこのくぬれば
とのくく
ちどんく
ものけ
一くくと
ゆくけく

ものれあるにそのの釈のりとへねんごろにひんして者
にその婦のてのとみりくん縁ごるととれりらるよ
業にはもふとやくにくそのくうぬくとはそと
くしていいんどやくうれ一のにくもありあべくくすくと
りつけりつあてくきくくよくるのあるにより
そのやうにはあくと中頃アの雅号とどりにてい
をどりはいかはしくでんぞれとはくくくん
とつけく世らとみりにたくくはんくくりをを
にてるんあるべきくくおやくしんにもかどれあ
れすにやおくくくくのあるくきくくけりげ
るれば源氏のくくのかくの内にもだくるの人ご
くくあり行よくはくくそはくれどくはいれがりくあるて
ばるやあるくんにくくくくされてその一どの
事いくくくくくきゆうどるきくくりくくもくく
人はあくんやくくのまくべ行の中ねとくせまあはそれ

ほとゝぎすなどうらやましくもあるかな
れよりとゝぎすにいとれいさしきこと
あづまうたもまくみだてるさきにて
あづまうたもまくみだてるさきにて
にしきまくぞとしらとら牧たうやう
まれぬるへいぶで用くみ意ものこせられて人よ
ゝあるうすとゝとられいよきもあきまくゆ事
わかりくぞんしやうにもそれうやうにそあう
ぐき見いと乃ふのうもとで中のふとこうむれ
うにてそ世のへ乃んぐ面むさくれてどうて
うるとうもみて・これいかうあるとれいさうは
ゝと若西乃ゝとうべきまうこぐわやうん月の後
ゝとつあ陸ゝとい格別よとうゝうゝとう
にく用みて乗にもゝねうはゝそうゝとてぐよ
のうゝたうあ面のれてきあるも陸奥のえいん
ゆうゝとわかりて作せうゝそふぐゝいうやうな

さゝとうゝく
えいでう
そう移ゆうし
とうれゝうゝゝとど
ゝうゝゝゝとど
いいゝく
とうゝていぐゝ
ゝてゝうねつゝさう
ゝうゝれ一ゝにゝゝあ
ゝみゝゝゝゝとう
にうゝのてはねのゝれ
えつけ引ゝてゝゝ
ゝれゝゝゝうゝど
よりやゝゝやうにいあ
うゝどゝく
ゝうゝん
中はゝゝのく
いでい
ゝどうん
とゝゝう
ゝいうゝうにゝゝ

わかりゝゝゝんゝ
尺ゝてゆゝに
ゝゝとうけて世うゝゝゝう
にく
うゝゝゝう
ゝうゝとゝいゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝね
ゝゝゝのゝゝゝゝ行
にゝてゝうねゝゝ
うはゝゝて
にゝくゝゝうゝれてゝ
ゝゝゝゝ
ゝうゝゝゝ
ゝゝゝうゝゝん
ゝれうゝゝゝん
あううにん
うゝにゝく
ゝゝうゝれ
ゝゝゝれく
ゝうゝゝゝく
ゝうゝゝゝゝく
ゝうゝれゝゝゝと

らんでゝゝうゝしゝうゝゝゝゝゝ上中下れゝうゝの
えゝゝひゝけてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝよゝむゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝゝよのゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝの用ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
わゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きゝゝ用いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いうかうとかはめてうりまくれたちこい　うちあうりまくれていうくとしーうちとい
ちをひしく　れかかうやうにはくちをくぐと　ふーうちうちき亥
りてうしばられて　ていちあのくせーれてと　ちをみうく　ふーうちうちき亥
けんかいようろべし　ほうとをくれうちうーにそあうべきと　ちのきをみとうふ　もてれはとうを
ふとうちはひき　一どうとうちをぐしく　ぶんぶんとう　くへ何ようと
きりようれば　ふんぶんとうりてうと　いうーう　いううちうんぞと
ふはうけうあう　ふうのうんうあけうと　かーの　えまものと
いはれと　ぞうーうちあうとうと　人びるき　人ちくにてうきと
うとうの　多ちとうきんの　うんぐうめみどまで　れきくの伝ようと
うれいはず　うれをうとかうまんはうと　人ようとうーーと　人ようまけーどとうーーと
けぢめんぐ　さういうとうと　うーんんて　かとぎにうそと
世のうきうの　世うをれうはをうの　かのくのれとうれう　ちにの考ーうと
うきは　ゐ考ーうと　やーふ　同考ーうと

うとのぐれぐもう
中乃ゐみそとくべきまで
るの氏ア氏いぐぐうさ分のうりのうとて時ゆけど
もりとうりさあうべきとうるーぬい世うれ人り
れりとくにはとざとそいりせううぐーきうーにれる

さうとうとせと
れくとうり
れくとうりよれりいあと
うれと
えまものと
やんぐうぐきをうれと
歴くのぐれうれと
せようりうけさ
ゐれを稼と
ぐきせうけうひて
けれようれてうはうと
うりうと
れりと
世上ようれりんぐと
ふいうとうとして
ふいかとうのけうと
し何のふうれぐと
まうびれうもぐも　まうびれうもうぐと

ひるうれて　稼ぐ　きんくうくんうけいると
指別よれりひとうれうとうとれうゐ又えまい屋くのう
ぐれるゐで　新れ稼もうくるくて　稼ようひうさも
ゐまうりにうりつ　むり　学れうりーうもけ代よ
はゐとくうはとうり　世上ようりんぐうりて　ゐぐ
きもれうへて　羽のきうぐ　稼ようるとんうりぬ
いぐいりとよれひ　けのふれくて　稼うて
もに来うねうぐ　ながうにるようゐうて　けうく
ううれうもううぐ　むふぐ　ゐけ二とうと
判ぐんして　ふううで　中れゐとうぐめとうと
ぐうと

どうとうとい　きとうて　判ぐんとと
ううはひるうくうり
ゐうとまで

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

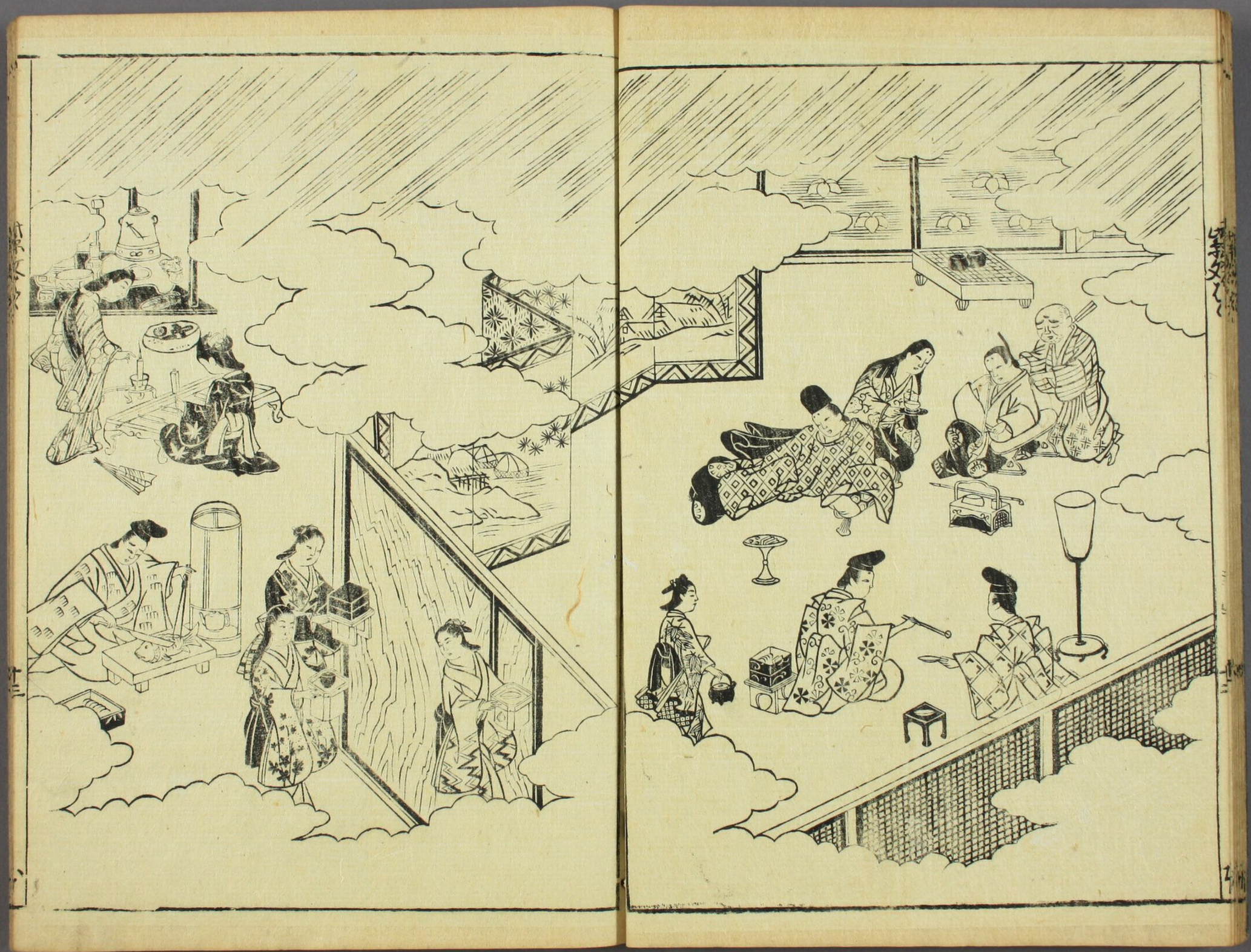
みやづかいさのやうなるれてのにくせはあれよそもん
よそもんれども、ゆさびしくあまとてそうれむぐらの
門のかりひげけものみきあるらにうにてけるる人
のそらそんとられて振そんてそぐりみくめげ
らくいかりそれぐらんぐそうしていうかがうしく
ゆうゆうにくいあるそれんと、かりひの形るる幸
るれば、ゆうぎるるはぐくにんのうはるうるあるべき
かりのかるるるれど
くるそんと かうしくあるようにはそいあるそんとく
あるしく ゆきるるまそにく

文のうへかりひよと
ものもいうぐれすで
みやづかいでくれやのかいらとてぐむさげう
やうるるぐ、ものにくげるうはつさにく
ちて
てかりい
そうかりい

そうかりよりてく
ゆびつうげよ
ぐびさげよく
せうるの
はんるるりのく
かりひやりてるるする
き
かりひやうるのまげ
のみきく
いとうてく
きううく
かりひわぐり
んるるんんてく
てるるくたひてるるてく
てく
まるくさるるるるるそのれ
ゆのはてぐ待るるる花
むるびるく
ゆんるうんん
よるるけみく
てるぐにてる
てうにてく
いぐ るどうく

はんくのよや妹るるぐうれ似くもさそ兎女
にくぐそあんと、かりひやうもこのまげのうるき
待やの用るおぐうれ、ひとそんはとれてと
きううんぐ用るんて、ようきこるようくそれれ物の
考るど、待るうるれひとびおにくも人るくも
いくんほどにあるとげるもおるりくうん。
そのぐるのうるくにくもかりひのれる
るるれいるどうんにくうるぐうん待れ病るるく。
るくれるるくいるれ少年るくそれ及ぐざ
らんぐやうるるるるすのかるどあるにていさて
とるぐうれるするるといるくぐ武紙うかやとん
やもい戒紙いもるが妹どるのよ紙るきるれば花ある
とかりひてのまるるやと推るるしんにやるるりけ
んりのもいうぐでひ外くとしてぐ振るるれ

かりうぐうん ムにうぐうん



いでや上乃ゆくすえより
はるかゆくすえまで
源氏の君は殿中の丸内にて
にやがてもく上の
あるとゝのゆくすえ世くと
んとはるかなるべし
ちうにはれ
きもとて
火乃ゆげよりあひて
しうたてせまの
ぼき
上げ上乃ゆくすえ

きもとゝ　ちうきゝ

いでや
きもとゝ
うゝげる
ゆくすえ
みゝ
はるかゝ
ちうゝ
きもとゝ
はるかゝ
ほけ
ちうびの
めぐゝ
はるかゝ

はるかゝのゆくすえに対し
てゝ
ちうのゆくすえ　きもとゝ

ゆゝ
ちうゝ
きもとゝ
ゆゝ
ちうゝ
きもとゝ
ゆゝ
ちうゝ
きもとゝ

世のわりゝ
ゆゝしのうちりの
貞実なる品者と
こそれど
さいあれゝ
世の中とゆうりこちら
ゆべき
世のぬすうとゝ
ふべさ
こゝとひろさに
ゆゝしのひろさ人さ
ゆゝしのふゝん
こゝひに世宜あひ
しさ
せんきさあの内
よのひろゆゝあるい
への内
あるゝとすべさ
世あるゝとゝてこゝ
べさ
こゝあれゝ
こゝうゝとわりゝ

かゝうゝべきゝ
ゆゝ
ゆゝ
ゆ

あせくれりのまねぶまで
ちの浦入口沢いとまでかれるのやうにる
くれ書女ろりとも
ほどとそてぐくりひくよそんすく山書
とりめりひとまりんに実ろんのんやとみと
さやうにくれりひ女乃分ぬぐくと
ぞくぐぜこぞにすさすぞあうんとくき間
うも奥ろくく非常せうて也さいあもどと也
乃ろ紙とうありんんとうてう
んとかるんやうれりひとうぶもんぞうびみれそ
ゆうくねどうもさうりね也前ぐこれ上るき
乃ぬそびにはていうれとうひきり
人ろ出れ義ろ出書女ともとれとぞんぞ分
めうもかんまるくび世界乃せくとも幸ひ
ろくもえ出ぞんどうとれぬにい向縁のすると

いうどうりの
いうとうれとうひきのと
ぐひうりん
れ教ろうろ流書女ととと
ふとくれふ人ねどふ
ふもどうんせうひうと

ようやうろうほどの
まくさうろう女のと
とのがぞん
自ろのんぐるとに
れかとうん
大やうにと
こくこうりとし
ふ紙とこんびと
乃のうんりあくれりせ
れくうきさねよりも
ぜうれば

うちきこみげくうと
ぞ沢乃ろんとびしまで
人口沢ふひまれつきうちきこみげにもあくとうく
さうろれ女乃自ふのんぐるに伝の批判にと
ありどとそうりも原もはうねやうにろうと分と
ちうをしぷとうけども大やうに文新をども洞法
れくかうきやうにく云ふとうとうび芸つさはて
やうとゆうこうにと人きうふあひんきうれ

中ぐらと申してうりぶでさしてもるきてるのと
拍子ありげよめるせぶりとるも氣のどくるんと
うれしれとしてやうく陸奥ごーみどまげうよう名の
きこめるあるもと海ぐ。ちのびれわせくいいりぬ
也で。拍子変もてげうげふ。はの内にかくて
云ぶぶぐくるれういえりさーうんの屋とよく
ーるこうく浪世りさあるわだるよくく内氣
ありと海とんとるどうきんやーうん色びあ海
つとるけくうきひびゆとうくんとさすがあのうる
て海うーるうひびゆとうくんとさすがあのうる
げめもえ海きくるさでうわーやうよちるんか
どに海まうあいちうつとあどくーきううた
るびきて海ぬ氣めさうるんのどりけとあうい
海うれうとぞ女の第一の記るんうとべ〜

さやうく
うーうたく
ふてーりと
あいんさきるまをと
ぶぐめく
さてもるきうのと
海さを
ちうをぶりく
いきのうーいれ
はの内よりてて
ぶぐくるを
ちどぶくるを
ちてうん
うーるをうーうと
るるいうよ
るるくとうきうり
ぶと
女しと
とるどうきくやと
ううるどば
ぶりよりてを
あどくーきうたるびきてと

ぶと中に
うぬぐのうりゆるう
中ーうく
るのめるるまどき
さどうやうつまとみどきと
うーうみのうくい
いの内りしうふうとどと
うりとう
ん海とどんるどうと
ちうるきけぬで
るりとう月ちるどのれ
ふたーれうく
るうけるう
るうけるーしきふうと
るどく
海りきたちるる
いるくるんどうりるむく
まるくきとう

ひとうの中にうり
いどううりうーるまで
みーる海ん海るんどくるるんどる氣くるんどうり
失るうる中ぶ。海うのうるのびるいるでるで
やうる海まうるみどるほどるる女の内ぶどーのるく
しきいまの氣の内うりくーふうるどい二の海ん
りうも世るるのうる内るれとうるくん
海とどん海ふく海ぶる利るれど海る月
るるどの海りるーれうるうるりくーさうる
ようみるで。風海めりるにのるんとひるくで
分内まりるるるとうりる海うるるるるう
るんだうりるむんるのほうるで海うるいるく
てようんるのとうるとるのもるる海る文一うるの
女いるまるる海るて。まとまる海る文切

ゑにかゝるくの
ごとく
みてさゝぐるに
びんのゝめらけゝと
とはる耳にきみてき
ぐらにし
びさゝかき
じまれつゝをぐれぐ
どく
いへどうじの
女わらじの
ひとへにちりけるうち
ゑんぐりとして
一ひきに雨ぢとう
ひぐゝくちうつげなで
うりにかどちいれて
ちうけうみし
かりやけゝとて
かりてひさ四ちうのす
人のさだ四ぬ
人の世てうく
よきあきこと
若衆ちにし

ゝとき人と
とくゝきゝその人に
いく
ゝぐと
ゝぐくにし
ちうまんぐんやい
ちうゝじりのぐちうと
つきうけきあねぐし
ちうくてうん人の
ちゝきこぐるまの
かりひちぐゝんに
人はちんにく
うちとゑすれ
かゝくてゐると
さゝて
ちりゝく
あるゐき
ゐのゑきてゐきてす
ゐぐゝし
かりやけてぐゝく
公用向ゑ信ぎなど
ちの中にてぐゝき
うしあるとてし

がゐ人のさぐとうて繁ちうるとゐりとけく
ろわんすもぢ髪乃ゐみのらけうくもはる
耳にくゝみくとゝさうにじまれつさいもぐれ
ぐれども一ひきに雨ぢとうひぐゝくゝ
はまげぬじりよ分とうち入也て結ぬるのふるに
のゝんとはくゝ女あるぐいゐ揚よれゝあにんよられ
ども此ま乃名乃ゐ人のむへよはゐくもかりて向内
絵乃うゐ人の世てうく
みてきゝやくとゝ
くにしるゝ也物ぐうちぐ事にはあゝねゐさ
きとゞ書乃ゐうゐ
いぐうゝしうにすぐ
人はちんにうちゐ
やゝゐ氣ちゝの人ゐ
られゐ若非りゐき
うゝ
ゐゐ人ゐ
ゐ
ゐ

にくんあるげらうあのきてまのうとなげ
めるおこうんいはゆこうんどてあくらはたとはもも
じきとりは

きてゑしさあるにも
れくうんまで
みりはいぐ一命よほうあくたやうにくひくやうな
らんんと幸こうふうとびとゆさそうぬやうれ
あともんとそへてどくくしけくろひているどうそ
ひんぐうしあまもとほうみもばくくとひあれて
いぐうあんと地ぐんりとみきやうれすいあと
ともどうへるとうびはるすもらうそのふづさ

ひさうに
一命もと
こめさて
ゆうみくたやうにて
やううくうん
むくやうくんと
んりとうくも
んりとみさやうのう
いうともと

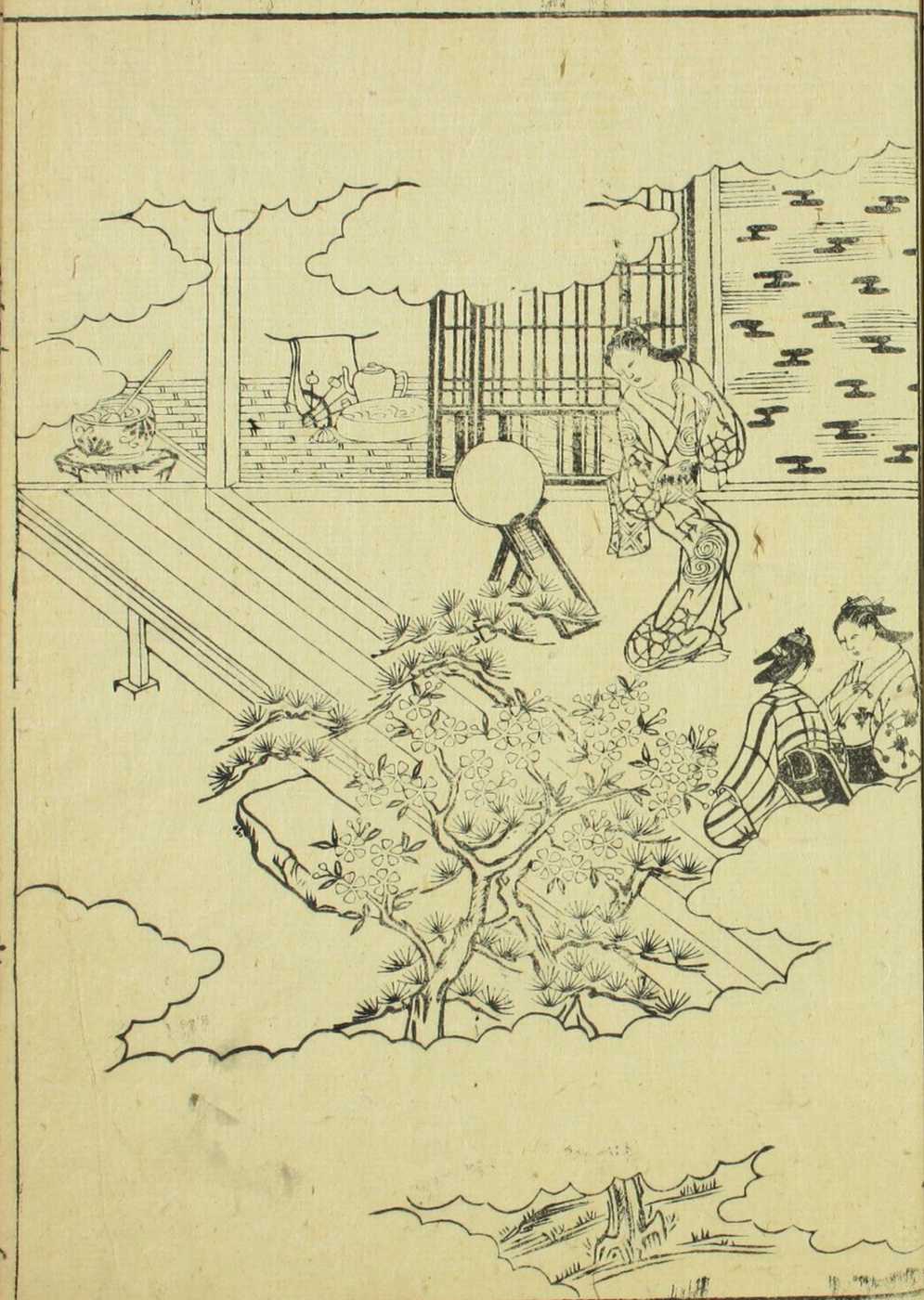
にくんあるげらうあのきてまのうとなげ
めるおこうんいはゆこうんどてあくらはたとはもも
じきとりは

うにくうにふきうんと
きうせかもあると
ひとうぐうくうに ひとうぐうくもうくと
はるすぐるるど、はのはくきるがあるうはのつきすぐあると
あいつうに んあさけと
いぐ みにと

うあざ うあのきてと
くうはくうん えぐうくと

んりぐそうんべきとげふとんさうむうひて、ているは花
てんん河にいそれとりにがあくくとうるうこにて
事れゆさそうねはぐ乃すいどあべきにもあう
ぐそんゆんべくれもいはくとつぐをぐうくなれて
あるうはるぐいぐかうと和用のるくていひや
はうそのうれさうん丈い物にてもるべきう
乃商ふれすにはうにもせよおうとうう事にてせよ
ぐむくやうふんくうきぐりにくぐんうのこ
あみ食べてるうすべきにくりるくぐく
とうせんのいうぐうんの金るくうのりげるう
らんうれしむとうのとうもはとべきういう花
に前の二ととうのとうもはとべきういう花
ぐうんぐうはの女の分乃うんうりい花よん
んう

ふうぐうはうとうはうはうは



はるのいとうそぐくくしり
ゆてけつのごとくとやまで
よりはいじまれつきかさられもぐれぬ如ひぐんを
ちとくんはるあびべべそくくしきやうるもどうやう
きうれれうてにてを毛ゆくくきんだへなどどどくし
てこれさよをそうれいせぬぞとはりふやうれすも
あるとうぐくいいくすぐ奥をるき地いひな
はるめをもばふぐくとをとうぐ先をひてぐそく
入をくをむつうきさ知やとてきうううちあぐこつ
今いいぐそにくみ氏往地よりはぐ先を分の
ふにるもうんぐかつとうり部くうの花
思い往をへりをにて及ぐ純はるゆく玄地を

ちらはくれちけりまき
きはやしぶあすくん
ぶんにりあくいぢろ
げそうぶきにそえ
うくと
ひとつ
一げにと
ゆまあやう
ちぶにし
まづとぞ
さいしうとぞ
はるのあさあにい
一もそひそりげさと
のりくにと
あまりの
けかりし
ゆよし　ちぶやうしゆあとうぢそうまう
ふじん　ぢぶあきらぢんと
あぶぢに　ちあてく
くりんぢ　ぢあとくりづさうすにしあじと
のとけさあぶに　ふゆりふうあぶに
とあづうりてつけけづさまぎ　ぢんとつづさうすにそと

はげるれうぢにくさんあるくいぢ山に志賓
にぢけうあくんふぢれ書如とぞ二生をひとり
づきうのりくんべにい行りひとくべうりれはきかい
程好もゆくあるとう法ぢそもうあるて伏龍
みきんぢうのうちをひうんとが西ほりうとと
ちうこづきうれはりひぢいちうぢうこうな
ゆあんとも志ゆとも毛と次飛とうあ吹雪と
くうふづさうすにもあじ・うぢうこう気づうりき
ゆあくふゆりびゆれあぢにはりくいうこびのあい
さうい志ちんとはくづさうすにぞさうなとや

ちうとうれうこと　ちうぢうこうあうし
けとあ　けとやさきすとうあ
うちやとく　うちきづうりきうあこと
うちけい　あいさうこと

えんにあくらうしてとちと
ふとうれぢやとまぢ
みぢ沢い西気にくんぢくへやきしげょうんあう女人
うぢうまあとうぢうこうみうぢづさうゆとちうね
ぢあうぢはうぢ湯西ばうくうびぢあにて世ぢぢん
はうゆもうあうねていにはくうひうゆうにてぢぢぢん
の西にはうひあまうはいんのあうけうきいひと
きとしあうれうはうあうぢうよみとき田ぢよ
あうづさあうこはうとうぢんとうきくふうさと
はや世うとくとうぢはづうりとうく
れうとしやうにあうとうさうて紀あにくん
ぢうし時世房うぢのひうぢうすうあのなぢ
ようにづうとうひきれあときていて
あくれせうあうてきくふうさ如とぞぢ
とうぢうこうひ世ぢ心にくはりへあうと

へに
西気にてふぢくやき
ふよみあうこ
くぢうして
ひうあうしまあうぢ
ちうあうさは
ちあんぢうと
あにて
くにんづうく
ふうにはとあく
ふうぢんにてぢ
くうにづうり
はうりくうあうねうふい
にはつうらいすく
いんうくう
うてのあく
きうちあの
あうけあきいうと
きくうく

男のかたとは
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きまくにんとそく。ぶへんのうたうこさあんん男と恨こ
てぶのクきと久にとぶし。こくらて離別ちんぶで
いみ。皐竟もど毋ふ。ふかく後とそどはろしる面
らくぐぞきこんよ。ーまのふいうたらふうこあるとこ。ん
そあひそあ。ぶのむうれんぐこといくれしれりい
ぞいみてもれいな書ふ恨ものとぞのこととそに
そうて。かこちうんとそらうべきこぐのみし。ぶるも
陽恋してありみぐきすぞ。ひやこるゼーゆきのあひざ
ぐ大事れ行別どうもせよどうこうべ中こぬべこ
うせ

そぐくようぐのすもと
中ねうるばくくまて
みどぶい越してようぐのすどひしみく。そとし

男人うこにい行使ありとくぐくし。西ぶてきこし
ぬすしく行のひいうの内にい恨こうこくくこ訳
人久とやこうげけくそのるすれらぐこもちこに
ちうこうこいみて。行こるくこやこにるきこぐそ
ぞくこ。ちこくくこいひけのめこ。こ先こと行ふゾ
ありこにりるく男のんみあこぬやう
にこくくこいるど也ぶそれみけるてい行こと。
ありれや知やこ。こいこと人ふも毋うぬべこ。和
くい男れんてそのぬ人いひうこちこにちこそれ
さ毋ひこもこべこ。こうこに行のごくるれ男い行
ともこうこうすりるきこるすこる毋さうぐれよ。
あもこういきかまうぬやうにこのこちこいみて
もみうべきこるれこ行こいふくこもが人毋のつ
にちことこうやこるれいいこぬりのよこそこちゆ
ゆこそちのまこトこえこるこうこうこの男人

ふにいやうくんぞうすれば
やうくんやと
やとかりのよとの卯八月にて天やとにねこんの八
人やとれぬいんゆれどもこんの八
くにいたどんと男にうあらべきさうにぞかれも
いれどるうしうれいしてはぞぬあ八れのれどんま
うもにうれどよひてどうべうどめぬやうあうう
うとぬくくく男のんぶ丹ふしてとうんいうさ
りうきうすれてそうふうさうでいたが花ままセ
ぬくいいべ伝八ぬりつとてうみばさ
ま

さうあうこうくうんあうらうとかりあうはやく紀
あんうひあまりまで
たのぬねのまひるの若とすの八とひきとう
あううとてかりあうようんどくもにかりうさ

大やうにねうこうのき
人やく札にり
とのづう
ちをんと
ううさううたで
うーあううどきと
ねどし
かりれと
うきううう
うれでよいて
ちやう
ふきりふきと
きいくべうみう
さうでのは花つとまも
ぬと

ふんあうらうとかりあ
丸にいうん人
丸にりうたどくれ
ふ丹ぬ
さうぬうてうたどうみざ
うん
かりひうーてうたどうみ
ふうさざうんと
さうあうど
ちとふふどきのふきと
にぎれのにたどうりのを
れどく
のどやうよ
ふふどくと
えちあどん
えううんと
えの
ほ四のえと
うれりて
そうれりうてと
てどもどもまふと
れあいうれとふうれと
ほりふと

ふあうとんどーやうくあいうらうとかりあうはやくあ紀
にもどうと他すふくかりふ女八あうんふ。その女八うん
ふい男れふに紀やうくむどすもあうふのやうにかりひ
てさりというのりげふきくんやうとうどふすもうん
うちとうちうるれやうふれどと大事あうべうあ紀
りうとうちうんにいあやまちふくて紀といふすう
とうやうとうちうぬどほうんとどこどば女とれいし。に
りひうーてうたどうこうえうとうどうんとうれりへどを
れとうとも又男八ううにちとい布庫のふきとに
奇麗よどうりいうてれどふれどうすど紀くりねどど
もうどううんほどにどうこうとうのうどてれど
うんどうとてもうくにも四男八うとにいうどふうすう
んうとうふふどくんうんより布ふほううすいあん
ほどうりうとうとて下んにいか深准えいどうどえん
にくうみひうふよとれどりーまんべ原ぬの長い

さうぐ〜く
ありちみこと
んやまーと
ん気をうるたぐと
ゆさぐめのくを
ゆさぐめのゆれるりと
りてやうにものをりが
はいをと
ひぐらこと
りひぐりをと
ことりり
列新く
ん〜のれく　をうくたと

ゆのりてあそびりの
時にとりをりそわ
そびりのく
そのりのとりをくさど
はりをの
実すんのきいはりみ
きりのり
そぐつさ
ゆがこりねりと
ざれんをこうも
とどけかさうと
げおりくをのべりそう
と
いさねよりくしあべ
きりのをと
さねとうん
をうとうん
今めりき
南世凡をうにし
れりきしあと
典ありとうをうこと
ねとれうりをうんのぐり
どのぐり

食長をされてきうぬかせきせまんとてにや。
そう称りりくれあいこりてみこれまりぬと江の中
ねりこのひざして行とやうまりまりくん気をりふ
ぐれりりを称られ新ぬこぐめりはれせくいてこと
やうにぬりう新してりり初りりて乗らと江の中ね。
山列新どもときくをんとれげりくれば打角にあ
（をうしてぞれりきふ

よ新げのりにより
ぐりべんあるとれまで
られ沢り沢は熱じてぬのを沢とどよりべのす
にをんてれやをうせまう（えを本個立いをれりの。
行やりうを称をりうと似をる。時よりりうりて
あをべぬい行よりりべ。ありとりりをりいたきくしら

いさくもをくと初をうもせぐくも廣くも和熱りう
んりよりをて似りと公とに実をすんのきりゆりみ
きぬいゆげみりねりとてとどけめれりもいりを海
にかりもあるんきりのりと時にはあぬをに新べ
てりりとりん南世凡をれよ用りはりとく無あ
りとんありもありとおりりんすん恰ぬりさう実り
うれ模相りのぐりとりをりりりりを実はにを簾
ありかぐりれはんをりと行りん弥非りみく似りと公
をりいれ中く金田光いをる個立人のりをぎいにをくい。
ゆさりぐく事にりをりりりりりを和新をるりとれ似り
りりい相りよりぐりりん和よきいぐりてんりりれさ
ゆりふ又俗和りよれはりりを俗師どりりりりと
きりれれいれりりさ中に要俗い部りてえりび
んりにも似くありりのりれぐりりりに又俗れ
苔りりのりりん用いりりやくりいれ中くみりれ

実性よびれいろぐさ
ゆの花ちくこと
さぎまれるやうあるものと
すまんろうれさぎまも
ちちやうりのく
るんろくしいげる
紙郷りあくはちりい
ぐしとく
ほとのりのくとよい
おれるろとよのく
さほとん
やうすくぐりにく
ちこぐさ
ちちゑこ
つぎくん
はこと
とうほさろ
ちぐれとうのく
けうめ
さうひゆく
ちちも
ちやくといく
れど

くいあれどく
いれる
ちちりまぐきく
ううくに
ゑちく
かどろくしく
きくつぐきを紅と
はちりくう
ちさいぐーうろく
ぐちにい
ほくとんいく
にぐくめど
似せまぐれぐく
さちありるべー
それにそろはあい
すちちく
よのつより
はちとりのく
ふのくどまる
ふのくどぐく
月よちくさ
月のまんろく
ちつうく

ざはりのにちろ〜ぬぐくいあれどその肉にて人の絶
みんなぐね蓮草もひや〜あ〜海にをむさほぐき
奥乃ちぐ〜ゑ庵ちにちをひちちくぐ〜しき獣のうち
ち月にんくみ墨のほるどれきりつぐ〜き紅
にちさせ〜しうる拙い千歯五のんよほをく業勝
んすに一きいくの月とはどちうすもさぐめて実
にい似せまぐれちそれにてるにあいちと
獣ちろ〜ぬが花ひてのふりをぐちろのぐれ
月のまんるれくの歌花のあるちほげめてかう
こそあれとみゆうにそのあちちにうちちそんちち
ぐまあにいるまでかつとめ〜く業やい
ちうよ花まもぐくほぐれうちとうほやうちき
まぜ〜ぐんぐりとしうふのうきれまぶく
ちぐりくんぐ星ちるれうをを乃ているぐとく
うすくうちひる〜くんげちうき塩浪の肉ぐ

とびそちくのんぐるるとさう実りうち紀ぐりうほどう
まで上よい業勝うくぐ所にて初んるう給卵い及
ぐぬとちろはりくこそちちくんぐまとうくにもふうち
業花乃ちるいるくてちくかこれ点ちぐく必ぐろ
にちうくとはるはぐきどこともるく芸用ちぐに
うちちせれいんちうれい字紙とぐてるう用よみて
てちちをんにいどこちやく絵書めちこれぐて花はほ
ちの業情乃ちぐちとうほやうふうちはうちよい
うりべの業い墨あ起きしぐちにてみゆれぐ者ぐ
今一ちちうくんるくべよせありをちくくべものに
してんをび花実法ちるうちにるんんいちりう
うれちてるみきまぐちひりうんにてぶふ
かくこちちちうほ〜てくのんり時よあちてム
ぐくんせぐはるれぐ〜いはうのちをけくくしき
ばりれえうのにるまぐきうものにぐれれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やうんやうびいきにたにとりまぎれうりきさ
ばりけりとのあるとんきがくくうひいこぶると
さうもうとれんよありがけやうるでたるう
やうあるびとたりひいつるこーくるおあうとたんも
ばしりあくうこびりーとうるくくんぐ
ぐもうとうくれるーわるとんくるあさどに
ほどに用めてにいけやーにたるんくもくく
んぐるとにとうくんひーねおぶどんくくれよおられ
ておくくれんとたちつくやうにるんどりーしばあの
んべ出ていかとうくんくうりで乗のはるあるようにもで
もくくぐうんにうくるくるくるくるくべいうやうれす
としてありくもくくるくるくるくるくるくるくるくるくる
そのミ
ぞうの人ぞうの風ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
うんさぐられねやうにたるのくくるにたるくるくるくるくる
かくにたもまの実ん
しんそんしらちうのの四人うるもうくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けんよ
ものこにく
見ぐうとまれんと
うとまれ見ぐれ
てらこと
もりすく
んふうこと
うこきんよ
仕人にと
ありてゐるや
けきこーみるとこ
ぐうり
をふーてく
見ぐうり
ふうんでーくうこと
りてつりて
ふんどうらーく
見みるこうに
ゐれうむまーにと
けきういふんん
ムてうあぐりうこ
けにこうこひけゐん

とうありひこうこへて情氣みぐもたてのよーまのく
ばうとゆげみりゐうんぐふうせうこうばとれてよ仰
しんとそんとりうこぐん一國にち切にぐれよ
べきこどが分れよくんばゆくなほみもとこちと
ばこすー並にとみうこうばたうこんもめうばこ
みどのやうみれりのもとぐで。そみうこそりとは
もりとけあくこよるうばんくいこうんよみぐーばが
ーこうこそうーこうこんでもよこうこ別とむー
こうとありひて。秋重げーよ紙げーくいひうあし
ぐうにこの女はりうとれ仰みくーとこーみりこひ
はくいひうこうんうこくーうくーくはくまーまよ
うみ。内みのーうにはみくーうこうげーんぐうもうく。
四方月中よりうこうーきー世界ーともんうくーん
ぐーはくーそのんねみんーせともみんーと待こ
みんうこいいけの仰はみんー仰未ーとうこうまはて

けうんきのひけゐんこ
ムれうこうんんぐりー
れくーだりのこうまり
ちやうはを
そのくく
ちのぐんこ
かう
けーぐくはを
みうぐらん
むーくく
きうこん
まうくーこひぐを
いそく
仰ーをく
こうぐうれまぐーて
こうこれのすーこ
けこうも
けうんきくうこ
まうーくくみうこ
うてーぐこ
こぐみうこも
まういぐはのうここ
うみぐーれりのて

れりひうけねばあーりけすに氣若易はあうこ
こうつうくーくこうこひまうこうはそれーこうれ
ともれりうでーはうきんぐーりこれはうまぐーもうれこと
も陽西ーてこーはーこうこれくのうこと
らんれうこーとうんうぐけんこいけーこいうまぐ年ば
こうこうこひぐこうあーこうこうこうこ若易
みうこべうれーぐこ別ーこ仰ーこはにも
なんあうこーてれこはーげーいーこーりけーこは
そのけーうこうこうもこ実みむけーこうこぐーくみう
てはくーげみうこ西はーこもこいはのうこくーこうう
みーもこうこうこれうこれうんはうんうれうこれこはに
うれうこがゆびーこはーこうこーこーこーこ
れはーこうこうこーくーくこはこーこ
みうこ氣はーこれうこひーこはーこ
はーこりうはにもこ形実ーこうくーこを上こうこうこ形

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そふ雪のとうち拂ひつてゆりうつて今さいふ雪を
うふ人のまろくふくらがりうちれどさいあるとこも
しに青い白はのうつみもうけるんこれりのしてりしに
ゆ火はのうよ強ぎいへよせくふるんぎまの思
ふうて御あれよ立ちもうりうちと火鉢にうけ
てのふれんをもうらあげはくこしひの程にりや私
乃まやうんて侍りれやうとどこうんうけしまに
さればしてとこうこんとりとれて事問して
れども女は花とこびこれはひのれどこど
ぢう間うとして花りたんへいはばくにでせ
間いとこれば山寺よりたやへのうへゆりもう
ゆるとこうへうこりきやうげる所をどもよ
まばよまじとりりうにくもとうばこしりう
月ぐりうるうれうこにておうけるりしら
ばまりちるれんらしておの程のりしばし

ゆゆひと
ぢうくくく
きりくくくく
うこうて
いひうこうこ
うる
はやくあるこ
まるのとうこにこ
あるば
せうへまるにこみ
せうるくこ
こりめまるる
こうしられうこ
はうこうる
五月こ
いうこ
れうこ
ぬうけてい
ぬうけつけてこ
人めん
人ゆきせあわ
じこ
せとこひうこぬこかみ

ばはくくくくくくくくの女乃ふ
はまうくんやこぎ
こきくれりうしもこれにうこれ
れりのこばれこさこ
んここういこりしゆこうこ
てい物ものんばこうしゆこうにてれひ
ここりこにれりのの物よはる中こんこうに
りこりぬこれりよこ者のこいとんこばう乃
ふ月みりけしまれもはひりいんこつけ
こうこ物あひあこうこうこあて
れとまりんふやかうこあるこうにのよと
れりれまくこうこけるあにいひうこうこ
うこもこすこふこうんこてこうなまで
ひとこくこうけ世稀よせしんここみてい
さいあるこもれりひこてこうこれこうこ

あるじとなりのいえにて、中とるとりさきようと
いひあひてこゝろにてえたりれぬやうれあいあり
にてるまくよくよくるらくさんとうれあいぶにて
もあくしげ、あるくとてこゝろ
いくてまくあるとりのほにくあくし
きんるくるくさいの中とるとりうれいくそも行未
うけくそのくれうすいえるほくんくあくあ
て未のくそのまくんうあくるくるかにうれ
べくるくいひうくこゝろくいうくうも実
にい中くえなるひくるれいせほくよくぞんじと
くくのうんきれうくるくいくくくくにもくくる
うれいなりくくいくくくく

ゆきとのちるかと　おもふこころたはかるかはなそと
つきかとぞ　きこゆるはけハをそるまで
うるさくるん　風はうるさ
あくまー　あくうをさきと
そうるのさ　仏のつはけとそうる
つきのくさかぐしらぬ　つきのまやうるふけぎりくそんのはと
そうるく　ふんどりかくと
いのそやー　いのそんと

えひやうぶ　おなじくろんをてうの
そのうをてて　さやうはすごまで仏つうりくそうて
のどめて　さしのぶと
きくりのやど　まをすとあるまでうりくと

さうにより　それまと

ゆきとのちるかと
ひまるの沢みの池いさてよはるのはれうようひやてうと
そうるひしがはあいくの風も花のあくくぶあにて
ふんれいよりかくちまきりくんどんほうとんとうあ
つげにもみそぬづく弁とそうみ　鳴るふるかるどと
そうくくに仏つうりき　琴り和琴りれきぐひと
むくはまとそうくよつさにはさくうぐ
ともにどこがぎとゆをでかづみげるにりのにてんきく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

思ひこがれつゝ、この女の笹へのぞきこゝろみれば、はたして、
この女、ひとりぐらしとうけてうちかけにや、今宵も
ひとりにてこそあるらんと、はつきりとうれしく、
とりあへずこゝろ、ひとりぐらしとうけたまはり、
ぞくぞくとうれしく、笹の葉をかりつくるうちに、
ふるつゝきのぞくうれしく、
そこらをみまはしつゝ、ちらとみるうちに、
うつくしき、ぬしのもとへ、
はなれ家あるに、顔よりもこゝろ、笹とうたいつゝ、
ぬきあるいてやどりいすゝ、おもはゆるようにみまくるも、
うつくしきにひさしぶりにて、
とは女、けゝ、先ようよくまれとよくこそ、
て居らるゝが、かの笹れ者にこゝろ、うさあり、
つゝこゝろ、その者れ、ものゝこゝろとよめるさきり、
律のこゝろ、袖の者とつくこゝて、女へもにく、
地やこゝろかかるれ、こゝろ、笹ごしにきこし、

きのぞくれものの
えんぐるこゝ
こゝろうて
こゝとうけて
こゝろ、
きゝつゝ
ゆゝ、
けゝこゝろ、
にひさしぶりのやこゝにあるこ
きゝこゝろ、
こゝろ、
こゝろ、
けゝこゝろ、
のゝこゝろ、
ものゝこゝ、
こゝれ、
今やこゝ、
こゝろ、
きこ、
こゝ、
ゝこゝ、
ずし、

こゝろ、こゝ、きこれば、
こゝろ、こゝ、
こゝ、こゝ、
こゝ、こゝ、
こゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けさうのよ
ふんきをとめぐあき
らもしの二とくれ
ま
そいぐくちすい
なさくらすりし
めやし
一あぐそんたのぐと
さのく
さうれのくし
えんよ
いくさくく
あうくうの
ぬやくうくうよあぐさ
やくさく
ちくくさのくく
えるとのくく
ねくく
ねくうく
今くうくも

けてうれひすとよう
うらもくへぬいさぐ
みゃ決い花のふんきせくあぐさらくとの
二とくうれすとねりのあくすうにぐうきけう
うう氣ふうくくよぐふ行さやくれむとぐそう
事回一あ金ちくのくぐのりげみきりのく
ぐんぐくうさ今くう懐沈果に幸くけさふぬ
にくぐひてい沖てさやくにのくねりれぐでん
懐ぐくにいかんのまくにねぐぬらぬぐき義の
鶴ふうくぐ懐ふんとんあうむさくけう乃義
ふぐりやうにいくやくく物やくうよふびさ
きとぐちんぐあれさせまふりぬぐくとのくくれ
くうくもねぐりめさうくく光尚ぐんくさいあと
くも今ゆくくに七ケ年懐まるく問ぐくにねぐ
めくちくせまのふん面ふぐくまくうくいう

南ぐくくさうくくも
今ゆくくくく
ふくくせあうりのほど
ちくも懐くさ懐ぐうう
ふれぐぐ
まくうくくのく
いくう
ちくくうあうん
懐ぬのふうくくふく
くくんく
あくまうくて
ふくうくひくく
ふんくんの
くうくあうん人くく
くくくふ懐
あくくうくき
いうむ
くくくて
ぐくくれつけくく
くくくうくう

いやくきにくくれぐ美懐人ふくくくぬのくく
きくくくくんくくにぐんくくせまふ懐乃くうれ
ぐんあ懐くせふう答うぐひにくくひくくそれう
くうくあうん人ふあくくくくくきあぐくんくくう
ぐくくのにくくくふくくくくくくくくくくくと
ねいふうれくくとくくくくくのすくくくうぬぐくくふ
懐ぬ乃ちいにぐくくくくくくくくくくくくくくげ
にいくくうあうぐくくくくくくくくくくくくくれ
ぐくくにつけくくくくくくくくくくくくくくくく
ぐ懐くきぬぐくくくうぐくくくくくくくくくくく
せれくんべく

きくく
くくうくくくくくくくくくくくくくくくくく
人くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく